



台風にも負けず、2年連続、沖縄の海でサンゴの産卵を確認！ 採卵したサンゴたちはただいまサンシャイン水族館で順調に成長中です

サンシャイン水族館(東京・池袋、館長:丸山克志)は、①沖縄県・恩納村のサンゴをお預かりしてサンシャイン水族館で展示・育成を行い、成長したサンゴを枝打ちして沖縄の海に戻す「サンゴ返還プロジェクト」と、②遺伝子型を確認し、異なる遺伝子で受精させ卵からサンゴを殖やす「サンゴ礁再生プロジェクト」の、2つのプロジェクトを継続して実施しています。

サンシャイン水族館の飼育スタッフはサンゴのメンテナンスのため年に数回、恩納村に出向いています。2017年6月11日には、プロジェクトで管理しているサンゴの産卵を初めて確認することができました。

今年も5~6月頃の産卵を予想していたため、5月から海水温の動向を見守りつつ、サンゴの卵の成熟確認を実施。サンゴの卵は骨格の内側で形成され、成熟とともに色味が変化するため、産卵時期の目安が判断できます。産卵の兆候の有無を確認するため、6月12日~14日は毎日18時頃に潜水してチェックを行いました。しかし残念なことに台風が発生し、海が荒れて海中での作業ができないことから、海中で育成したサンゴを陸上の水槽に一時的に収容することを決断。陸上の水槽は海水を掛け流しにしているため環境は海中とほぼ同じで、台風の荒波の影響がないため水槽内での産卵を期待しました。

その結果、6月15日の18時頃、サンゴに産卵の兆候が見られ、19時30分に産卵が始まりました。サンゴは同じ種類で一斉に産卵することが知られていますが、今回もサンゴの一斉産卵を見ることができました。産卵は30~60分ほどで終了。その後、回収した卵と精子を受精させる作業を22時過ぎまで続けました。翌日、受精したサンゴの卵は分裂を繰り返し、順調に成長。約8時間かけて空輸にてサンシャイン水族館へ運び、バックヤードの水槽で飼育を開始。1ヵ月経過した現在も、順調に成長しています。

ハワイ州では2021年よりサンゴ礁への有害性が指摘される物質を含む日焼け止めの販売を禁止する法案が可決されるなど、世界でもサンゴ礁の保全活動が進んでいます。サンシャイン水族館はサンゴ礁の再生を願い、今後も保全活動を継続してまいります。



サンゴの産卵の様子



サンゴ(ミドリイシの仲間)の産卵は年に1度、満月の大潮の日に行われると言われていたますが、必ずしもそうではありません。その年の水温、日照条件、天候、波浪などに左右されるため、予測は非常に困難です。恩納村漁業協同組合のみなさまにお願いしてサンゴの成熟具合を確認し、産卵の兆候が見られれば東京から沖縄へとすぐ出発できるよう準備していました。恩納村に着いてからは、台風で海の荒れが予測される最悪の天候でしたが、サンゴを陸上にあげること無事に産卵に立ち会うことができました。採卵し、受精作業をし・・・22時過ぎにすべての作業を終えたときはヘトヘトでしたが、2年連続の採卵成功で一安心。サンシャイン水族館で大切に管理しているサンゴたちから生まれた新しい命を大切に育て、恩納村の海へたくさん返還できるよう、これからもがんばっていききたいと思います！(サンシャイン水族館 飼育スタッフ談)

詳しくは http://www.sunshinecity.co.jp/campaign/cp/coral_project/ で報告しています！

サンゴの産卵の様子(動画) → <https://youtu.be/xfZsGRepIyo>

サンシャイン水族館のサンゴ関連イベント情報

- ①普段見ることのできないバックヤードを飼育スタッフが案内する「探検ガイドツアー」を、毎週日曜11:00の回は「探検ガイドツアー～サンゴ特別編～」として、「サンゴ礁の海」水槽のバックヤードを巡ったり、サンゴの骨格標本を触ったり、サンゴのための特別設備を見学したりする特別バージョンで実施しています(1回約50分、1名様500円、定員あり)。
- ②「サンゴプロジェクト」で返還したサンゴや、メンテナンスの様子をサンシャイン水族館の館長や飼育スタッフと一緒に見に行くツアーを10月6日~8日に開催します。詳細はサンシャイン水族館HP(<http://www.sunshinecity.co.jp/aquarium>)よりご確認ください(募集締切は7月23日18時)。